

平和憲法の碑 若者に発信

戦争放棄を規定した憲法9条のモニュメント「平和憲法の碑」を藤沢市に建立する取り組みを市民団体が進めている。40代〜50代のメンバーの多くが活動に賛同しているのは、気候変動への懸念からだという。

市民団体、藤沢に7月建立



碑のデザインを制作中の山内若菜さん＝武本匡弘さん提供

軍事活動▶CO₂増▶気候変動 警鐘

市民団体「湘南 平和憲法の碑を建立する会」は、海洋環境問題に取り組む武本匡弘さん（69）の呼びかけで2022年から活動している。

武本さんは、40代〜50代の世代が碑の建立活動に参加する背景として、戦争や軍事活動から排出される大量の二酸化炭素（CO₂）による気候変動に与える影響を指摘する。「子育て世代は、異常気象や猛暑など日常生活に影響が及ぶ気候変動への関心が高い。戦争や軍事活動が気候変動を加速させる現状を説明することで、若い人たちもリアリティーを持って平和憲法の大切さを理解する」と話す。

専門家の試算によると、世界の軍事活動によるCO₂排出量は世界全体の5%を超すという。「戦車や戦闘機は大量のCO₂を排出しているが、温室効果ガス排出削減の対象から外れている」と武本さんは指摘する。

碑のデザインは画家の山内若菜さん（48）が手がける。東日本

「9条の大切さにリアリティー」

大震災後、福島県で母子像や被曝した牧場を描いた作品展を開催したほか、原爆の図丸木美術館の企画展の出版作品「牧場放」は、東山魁夷記念日経日本画大賞に入選した。

碑は、猫が赤ちゃんの指をなめているデザイン。「9条のもとで平和と優しさが育つ」をコンセプトに、「すべての生命体、いのちが大切であること」を、猫がべろっと指をなめている優しさにこめて」と山内さん。碑のなかに「9」が隠されており、何個あるかなと探してもらおう、なでてもらおう参加型でもある。「9条を持ち続けることこそ、人間中心でなく、小さい声が大事にされる世界への近道。軍拡、徴兵より、平和、人権、自由の未来へ向かってゆける。赤ちゃんと猫、幾千の鳩が象徴する優しさで9条を放ちたい」

碑は7月ごろ完成予定。台座には憲法9条の条文を日本語のほか、ハンガール、中国語で刻む。会では、建立資金の支援を呼びかけている。問い合わせは、武本さんが運営するエコストアパラギ（0466・50・0117）。（角津栄）